



下大和田谷津田だより

2005年 2月号



第60回「下大和田谷津田の 観察会とゴミ拾い」報告

1月 9日 晴れ

前日の寒さも一転暖かい日和となりました。でも田んぼは凍っていました。普段、草が繁っていて入れないアシやセイタカアワダチソウの群落の中をひとつ下の鉄塔まで行きました。今月は「春の七草」をテーマにしましたが、見られたのは「セリ」「ナズナ」「ハコベの仲間」で御形(ハハコグサ)、仏の座(コオニタビラコ)は見つかりませんでした。ハハコグサは花の時期には見ているのですが、コオニタビラコは今までも見ていません。定例観察コースの中にはないのかも知れません。この季節、楽しいのは鳥たち、冬越しで山から降りてきた鳥、海を渡ってきた鳥たちで賑わいます。カシラダカがそこここに小群でいましたし、キセキレイが木の枝でずーととまっていて行く手を阻まれたり、今年は少ないかと心配されたツグミもたびたび姿をみせてくれました。先月にも見たヨコズナサシガメ幼虫群、ホソアシナガバチの越冬群も同じ場所で健在でした。

開花植物：オオイヌノフグリ、オニノゲシ

昆虫：ヨコズナサシガメ幼虫コロニー、杉皮の下のホソアシナガバチ越冬集団

野鳥：モズ、エナガ、ウグイス、ヒヨドリ、アオジ、カシラダカ、シジュウカラ、メジロ、ツグミ、セグロセキレイ、キセキレイ、コゲラ、カワラヒロ

その他：カワニナ

(参加者：大人10人、子ども3人；報告：網代春男)

第44回谷津田ブレラント・プロジェクト(YPP)

「どんど焼きと昔あそび」

1月 9日 晴れ

2005年最初のYPPは定例観察会と同日開催となりました。かかしを中心に草木を組んだやぐらに正月かざりなどを置いてとんど焼きの準備ができると、まずは点火するための火起こし。グループに分かれて火起こし器を回します。いつも煙でむせたり、酸欠でクラクラしたり苦しむのですが、乾燥していたおかげで割と早く炎を見ることができました。それでも火起こしは大変。炎が上がると「ヤッター！」の歓声があがります。全チームが成功して、めでたし、めでたし。やぐらはあっという間に炎に包まれ、竹がはじける音が谷津に響き渡りました。食事の方は豚汁、焼き芋、おやつは焼きマシュマロにお汁粉と盛りだくさん。田んぼにたくさん若葉が出ているセリも摘んで七草(ひと草?)がゆも作りしました。お米はもちろん下大和田の谷津田米。まさに地産地消で今年も元気に過ごせそうです。お腹一杯になると昔あそび大会。ベイゴマは年配の方が子どもに教えたり、逆に子どもが大人に教えたり。シートの上でのカルタ大会で真剣になったり、微笑ましい光景でした。世代を越えてつながりあえる昔ながらの遊びはやっぱりいいですね。YPPには常連の小学3年生、江澤千春ちゃんが考えてくれた運動会もやってみました。木の棒投げ競争、紙に書いた指令にしたがって、歌を歌ったり、葉っぱを集めたり、ゴミを拾う「しれいをさがせ!」。大いに盛り上がりとても楽しいゲームでした。千春ちゃん、ありがとう! たくさん食べて、たっぷり遊んで、1年の良いスタートになりました。イベントの写真をちば・谷津田フォーラムのホームページに掲載していますので、ご覧下さい(<http://yatsuda.2.pro.tok2.com/> イベント報告)。

(参加者：大人13人・小中学生7人・乳幼児4人、報告：高山邦明)

下大和田季節のたより

1月 5日：日だまりでオオイヌノフグリが紫色の可愛い花をつけ、ヤナギの木の枝ではモズが獲物をねらっていました。土水路の水はこれ以上ないくらい澄んでいました(田中)

1月 7日：観察会の資料に載せる春の七草の写真を撮りに行ったとき、ヤマガラがいて、ピンボケながら撮りました。ここで見ないのが不思議なくらいだったのですが、私は始めてでした(網代)。

1月17日：ジョウビタキ、エナガ、ダイサギ、ノスリ、カシラダカ、セグロセキレイなど野鳥でにぎわう(網代)。

1月29日：米づくりをしている田んぼでアカガエルの卵を確認。例年にない早い産卵です。モズの恋の季節も始まったようで、オオヨシキリの鳴き真似を聞かせてくれました(高山)

年が明けてようやく寒波が訪れるようになりましたが、例年に比べるとまだ暖かいようで、下大和田ではアカガエルの産卵が1月からもうはじまっています。蕾がいっぱい付いて茶色く見える杉の木が目立つのは昨年の記録的な暑さの影響とか、いつもと違うというのは何となく落ち着かないものです。春からはいつもどおりに戻って欲しいですね。

高山邦明